

症例 6



外科診療 症例紹介



脾臓型肥満細胞腫 チンチラ（猫）/ 10 歳 去勢オス

主訴

数日前から元気食欲の低下、昨日からの頻回嘔吐

検査

身体検査にて 脱水と高体温（40.0℃）を認めた。エコー検査にて、・胃幽門部～十二指腸上部にかけて、炎症を疑う所見とリンパ節の腫大・脾臓の腫大（12mm 厚）を認めた。血液検査にて、軽度の貧血を認めた。診断 脾臓型肥満細胞腫 リンパ節への転移あり。

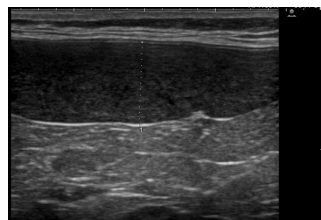
治療 手術

点滴入院にて状態良化後に、腫大しているリンパ節と脾臓の針生検を実施し肥満細胞を認めた。貧血が悪化傾向であったため、治療と診断のために脾臓摘出と各種生検（胃、十二指腸、肝臓）を実施。

病理検査結果

脾臓：肥満細胞腫 c-kid 変異陽性

十二指腸：十二指腸潰瘍



術後

手術後から貧血と元気食欲の明らかな改善を認めた。病理検査結果より、抗がん剤治療を開始。治療開始後、全身性に皮膚腫瘍の多発を認めた。皮膚腫瘍の針生検にて、肥満細胞を認めたため分子標的薬（パラディア）に変更。変更後から、皮膚腫瘍の減少と貧血の改善を認めた。現在も治療中ですが元気に過ごしております。

肥満細胞腫は、

大きく分けて皮膚型と内臓型の2種類に分類されます。今回の症例は、脾臓での内臓型に分類されます。病変部の摘出が可能な場合、外科治療＋抗がん剤／分子標的薬による治療がスタンダードになります。抗がん剤治療などでお困りでしたら、お気軽にご相談ください。